

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075200214		
法人名	(有)あおぞら介護サービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地 (電話番号)	福岡県遠賀郡遠賀町虫生津南2番1号 電話 093-293-8823		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27-2F		
訪問調査日	平成19年5月25日	評価確定日	平成19年6月14日

【情報提供票より】(平成19年3月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

## (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( ) 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200	円

## (4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	3名	要介護2	4名			
要介護3	1名	要介護4	1名			
要介護5	名		要支援2	0名		
年齢	平均	80歳	最低	69歳	最高	86歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	浅木病院, こんどう胃腸科外科医院 鞍手クリニック 鞍手北歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆるやかな流れの川には大小様々な魚が住み着き、自然に囲まれた風景の中に、民家を改造したグループホーム「あおぞら」がある。住宅街の角に位置し、地域の中にすっぽりととけ込んだ、まさに地域密着型である。代表が住んでいた関係で地域との連携が密接にあり、老人会や町内会に加入し、さまざまな行事に利用者、職員が一緒に参加している。運営推進会議もさまざまな方の参加を得て、調査当日開催されていて、活発な意見交換がなされ、ホームの運営や改善に繋げている。行政職員の参加で町役場との関係も良好である。提携医との連携は24時間体制が確立され、ホームでの穏やかな看取りも経験している。利用者や職員も穏やかで共に暮らしているという雰囲気を感じる地域密着型ホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の研修、市町村との関わり、情報伝達を確実にするの3点。については、サービス利用対象者が研修会や学習会で学び家族への説明もなされている。は介護教室などの受託は受けていないが、市町村との連携は密に出来ている。町としては委託先が決まっている状況であるため現在調整中である。は、確実に伝達したことを確認するため職員のサインを徹底している。今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	職員が評価の意義を理解し、全員で取り組み、管理者が記載した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の会議を開催し、グループホームの現状や外部評価の結果を報告し、会議での意見や提案を受け改善につなげている。運営推進会議へ出席していただくために、地域との連携、市町村との連携を密に行い協力を得ている。町からの相談を受け入居者を受け入れたたり、地域の方からの相談にも応じている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の希望により家族会は今のところないが、行事への家族の参加は多く、その折に家族間の交流はある。苦情窓口の掲示や意見箱の設置はあるが、意見や苦情はなかなか言ってもらえないので職員の方から働きかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との連携は密に行われている。町内会や老人会に加入し、利用者が老人会の総会や行事に参加し、ホーム長が町内会の役員を引き受けたり、非常災害の消防署による訓練では地域の方に参加してもらい、まさに地域に密着したホームである。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく」と言う理念を玄関や食堂に掲げ、職員に日常的に話し、実践している。又、運営方針にも、「地域の方と密接に触れ合い、地域に溶け込み、関係市町村との密接な連携を取る」掲げ日常的に取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「明るい笑顔」を理念に掲げ、管理者が日常的に職員に話している。職員は穏やかで、入居者との明るい会話や笑い声が聞かれた。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、老人会に加入し、積極的に行事に参加したり、開設者が町内会の役員を引き受けたりと、地域の中に溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を踏まえ、職員全員で検討し、改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	訪問時に運営推進会議が開催されていた。民生委員、利用者、家族、老人会会長、町役場福祉課職員などが、熱心に活発な意見が出ていた。前回の運営推進会議は現状報告がなされていて意見交換が行われた。		
	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者や介護保険支部との連携を密にしている。地域福祉権利擁護事業の利用は町役場と話し合いが行われて実現している。又評価の結果も役場、社会福祉協議会、介護保険支部に届け事業所の実情や取り組みを伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	前回改善点にあがっていたが、地域福祉権利擁護事業のサービスを入居者が受けることになり、勉強会の参加やホーム内での研修を行なった。家族にも説明し必要な人が活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理、定期受診など、家族の訪問時や電話での報告を行っている。ホーム内には誕生会や外出時の写真が掲示され、ホーム便りでも日常生活の様子を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は日常の訪問や行事などで連携がとれているので必要ないという家族の希望で結成されていない。催し物のときに家族と話し合ったり、運営推進会議に出席してもらい、何でも話せる雰囲気を作っている。苦情に関する窓口等の掲示があり、重要事項説明にも明示があるが、苦情に関する意見は出ない。		意見が出にくい家族の心情を理解し、家族を説得し、家族会を結成して、意見や苦情を率直に言える体制を作ることが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年間に9名の職員の交代があるが、家族での運営であるためホーム長、管理者、介護者1名は家族で、他の職員2名は変化がない。職員の異動に関しては入居者に影響がないように考慮し、職員は全員常勤職員で構成し、ホームの雰囲気や状況を崩さないように配慮している。		
11	19	人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されることに取り組んでいる	職員の採用は年齢、性別での差別は行っていない。職員は全員正職員として採用し、職員の社会参加や自己実現が出来るような勤務ローテーションを作っている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	利用契約書の中で利用者の権利や人権の尊重についての項目があり、管理者は職員に常に話している。研修会への参加やホーム内での伝達講習も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講習会の参加促進のための勤務ローテーションの変更や受講後の内部研修会で全職員が共有できる体制がある。また、日常勤務の中から技術の習得が出来る訓練をしている。		研修の年間計画を立て、経験や能力に応じて、職員が参加できるように研修を位置づけていく工夫をすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町外周辺のグループホームとの交流があり、相互訪問や、協同活動を行い連携をとっている。福祉事業者連絡会に参加し、交流を持っている。		町内に2事業所しかないので、行政を介して連携し、協力していくことが望まれる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを訪問し、一緒に行事に参加してもらうなどで、場の雰囲気に馴染んでもらうことを繰り返して、本人が安心して、納得してもらってから、サービス開始を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は喜びや悲しみを共有し、共に暮らしていくように心がけ、利用者の得意な料理と一緒に作ったり、楽しく食べたりしている。職員は出勤時には「ただいま」といって、家に帰ったような気持ちで勤務している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや介護計画見直し時など一人ひとりの希望や意向を日常の会話の中や見守りから引き出すように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、本人、家族、職員の意見を取り入れ、個別に具体的な介護計画が立てられている。介護計画は家族に閲覧してもらい同意を得、サインをもらっている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ、変化があればそのときの現状に即した見直しを行っている。見直しの際にはモニタリングを実施し、家族や本人と話し合い、介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診、理・美容院の利用の送迎など利用者や家族の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携医と24時間体制の連携が取れている。かかりつけ医があれば本人、家族の要望を大切に、継続受診につなげている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に希望を聞き、重度化した場合や終末期の対応を家族や医療機関と話し合っている。ホームでの看取りを行った例があるが、医療機関との連携、職員、利用者、家族の協力で安らかな終末期を迎えられた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような対応はされていない。運営規定や契約書の中にも、秘密保持や、プライバシーに関する記述があり、掲示されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、入居者の希望やペースに添った過ごし方の支援がなされている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を入居者と一緒に作り、利用者の得意とするところは、作ってもらうなど、利用者と職員と一緒に用意し、食事を楽しむ支援がなされている。食事時には、さりげない支援もなされ、入居者と一緒に食事の片付けが行われていた。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添って入浴してもらっている。現在はほとんど全員毎日入浴し、季節の果物を浮かべたりして、入浴を楽しんでもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや、本人や家族との話し合の中から本人の力を活かし、又は引き出すような、役割や楽しみを見出すように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、ドライブを兼ねた買い物、散髪など一人ひとりの希望に添った外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。玄関は開放時にチャイムが鳴るようにし、職員が対応している。又出かける気配を察知し一緒に散歩などをに行くよう心がけている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による災害訓練を年2回地域の方の参加を得て行っている。避難場所は近所の駐車場、公民館を確保、夜間を想定した訓練も行っている。		非常用食糧や水、暖を取る毛布などの用意が望まれる。災害時は火が使えないため、備蓄する食糧などの工夫が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に、食事量や水分量、排泄の状況を記載し、職員が情報を共有している。献立については、その日の状況に応じ変更もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	民家改造型の特色を活かし、生活感や季節感、自然光を取り入れ、居心地の良い共用空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型であるため、畳の居室、床の居室など、本人や家族の希望を取り入れて、本人の使い慣れた好みの物で、自由に暮らせる居室となっている。家族の写真や、仏壇のもち込みなど、気持ち良く過ごせる空間になっている。		